

令和3年度兵庫県立村岡高等学校 学校内部評価

学校教育方針			目指す学校像		本年度の重点目標		教育指針
(1) 地域に学び、知識と知恵を身につけ、地域と協働する創造的な人材を育てる			地域の学校		地域での学びをさらに充実させ、地域を支え元気にする人材を育成する		人みな使命あり
(2) 学校と地域の活動の中で、自律の精神を養い、規範意識と自己統制力を育てる			自ら学ぶ学校		自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成する		
(3) 学校と地域の活動の中で、豊かな心を培い、敬愛と協調の態度を育てる			こころ豊かな学校		協働的な学びの中で豊かな人間性を育てる		

第3期ひょうご教育創造プラン			学校自己評価結果【 A(4)…よくできた B(3)…できた C(2)…あまりできなかった D(1)…できなかった 】					
			評価項目		R2	R3評価	評価と改善プラン	
兵庫が育むこころ豊かで自立した人づくり（テーマ）「未来への道を切り拓く力」の育成	1「生きる力」を育む教育の推進	(1) 「確かな学力」の育成	①総務部	PTAとの協力の中で、生徒の地域活動への参加の新たな形を考え実践する	3.1	2.7	従来の形にとらわれない新しい協働の形態をかんがえていく必要がある。そのためにPTA,地域との連携を深め、様々な意見を取り入れていきたい。	
		(2) 「豊かな心」の育成	②教務部	地域の外部講師、機関との関わりを密にすることで、類型の授業をより深いものとする	3.4	3.5	多くの外部講師や外部機関の方に関わっていただき、類型の授業は充実したものになりつつあると感じている。引き続き取り組みを充実したものとなるよう努めたい。	
		(3) 「健やかな体」の育成	③生徒指導部	地域行事・地域協働活動に積極的に参加することを通じて社会人として実践力を養う	3.3	3.0	地域の期待も大きく、今後も地域づくりにつながる活動が生徒の主体性に結びつくような実践となるよう取り組みを展開していきたい。またウィズコロナに対応した新たな取り組みを検討したい。	
		(4) 兵庫型「キャリア教育」の推進	④進路指導部	地域の中に題材を見つけることで、将来の学びに活かせるよう指導する	3.1	3.0	地域に課題を見つけることで、大学等での学びに活かしたいと考える生徒も出てきた。比率の増えてきた総合型選抜や学校推薦型選抜の入試に対応するために、具体的な事例を挙げながら言語化していく力をより養成していきたい。	
		(5) 特別支援教育の推進	⑤保健部	家庭、学年と連携を深め、心と体の健康を自ら作り出す力を育てる	3.4	3.3	新型コロナウイルスの心身への影響が大きいと考えられる。学校側からのアプローチだけでなく生徒自身で自分の健康について考えられるようにしなければならない。これからも保健だよりの作成など利用して、さらに主体的に健康について考える機会を作っていきたい。	
	2子どもの学びを支える環境の充実	(1) 教職員の資質・能力の向上	⑥1年	「地域協働活動」や「地域学入門」を通して、個々の役割を自覚し、責任を持ってやり遂げるよう指導する	3.5	3.6	地域とのつながりを絶やさないよう工夫が求められる。一方で、協働のまちづくりにおいては、地域へ飛び出し、地域の方と共に作業をする場面は少なからずあり、それは成果となった。今後は活動を通して「新たな価値を創造する力」を培わせたい。	
		(2) 学校の組織力の強化	⑦2年	総合的な探究の時間や地域探求を通して地域を正しく理解し、地域への愛着を深め地域貢献できる生徒の育成を目指す	3.4	3.6	地域創造系、アウトドアスポーツ系や総合的な探究の時間での取り組みを通して、今ある環境にどう対応し、どう行動するのか考える力を身につけることができた。また、地域への愛着を深め、地域の一員としての自覚を高めることができた。3年生では、地域の魅力を発信し、地域の活性化を図ってきたい。	
		(3) 修学環境の整備・充実	⑧3年	総合的な探究の時間や類型の活動での学びを振り返りさせ、進路実現に活かせるよう指導する	3.2	3.6	地域創造系、アウトドアスポーツ系の授業や総合的な探究の時間で経験したことや自ら調べた内容を進路実現に活かすことができた生徒もいる。学校の特色ある活動を通して生徒自身が考えたことを言語化する力を培っていきたい。	
		(4) 家庭と地域による学校と連携した教育の推進	Ⅱ 自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成し、学力の向上を図る					
		(5) 特別支援教育の推進	①総務部	地域活動から学んだことから新たな課題を提唱し、発展させられるような機会を持つ	3.0	2.9	PTA、学校、生徒の三者協議などを行って意見交換などができるとさらに活弁な学校活動のヒントとなると思われる。今まで以上に地域になくはならない村岡高校となるようにさまざまな意見を取り入れる機会を作りたい。	
3人生100年を通じた学びの推進	(1) 主体的に生きるための学びと場の充実	②教務部	ICTの積極的な活用を進め、生徒の学習に対する興味・関心がより高まるよう、授業の工夫や改善を促す	3.0	3.1	教科によっては、積極的にPCを活用したり、コンピュータ教室を利用して授業を展開できたいる。より実践的な活用の仕方を考え、研究していく必要がある。授業研究や情報交換など、教員同士での交流も深めたい。		
	(2) 文化財等地域資産の活用	③生徒指導部	リーダー研修会やHR活動等でのグループワーク（討論）を通して、生徒の自主性、自発性、自律性を養う	3.3	3.3	リーダー研修会における班討議（ワークショップ）は充実しつつある。リーダー研修会を足がかりに、今後はクラス討議で意見を表明できる生徒の育成と学校生活改善実践ができるような取り組みをすすめていきたい。		
	(3) 「する・みる・ささえる」スポーツ環境づくりの推進	④進路指導部	探究活動などで獲得した知識や考えを言語化（志望理由書や小論文）することを通じて、進路実現に活かせるように指導する	3.1	3.2	探究活動などで獲得した知識を、自分がこれから学んでいきたい分野と融合させ志望理由書にまとめて面接試験で伝える力は養うことができた。しかし、情報量や知識量が不足により、小論文では苦勞している。インプットする力とアウトプットする力をバランス良く養っていきたい。		
	(4) 家庭と地域による学校と連携した教育の推進	⑤保健部	疾病に関する正しい知識を得て実行できるよう、実習・講習会などの機会を持つ	3.3	3.3	薬物乱用防止講演会、AED講習会、保健講演会などの内容をさまざまに検討して、生徒が正しい健康の知識を持てるようにしていきたい。同時に教職員へ向けても正しい知識が持てるように講習の機会を作っていきたい。		
	(5) 特別支援教育の推進	⑥1年	基礎学力の定着を図るとともに、自ら学び考える力を育てるため課題提出をし、自学自習の習慣を身に付けさせる。	3.2	3.3	担当教員や担任が催促しないと行動に移せない生徒もいるため、明確な学習目標を意識づけ、基礎学力の定着に今後も努めたい。しかしながら、授業中における教員のはたらきかけやその他活動について、常に前向きに粘り強く取り組む生徒の姿が多く見られたことは評価したい。		
	(1) 主体的に生きるための学びと場の充実	⑦2年	進路意識の向上と進路目標の明確化を目指して指導するとともに、進路実現に向けて学力の向上を目指す	3.3	3.3	進路実現に向けて、進路に関するHRや進路ガイダンス等を行う中で、進路意識が高まり、主体的に学ぶ姿勢が多くみられるようになった。しかし、まだ自分の進路に関して、悩んでいる生徒もいる。早急に進路を明確にしていかなければならない。		
	(2) 文化財等地域資産の活用	⑧3年	学校行事や授業等で得た知識をもとに、自己の考えを積極的に発表できるよう指導し、自己表現能力の育成に努める	3.3	3.3	3年生となり人前で自己の考えを積極的に伝えようとする態度が養われたと考える。村岡高校の長所であるので、今後も多くの発表の場を与え、長所を伸ばしていきたい。しかし基礎学力はまだまだ不十分な生徒が多く、基礎学力の定着に今後も努めていきたい。		
	(3) 「する・みる・ささえる」スポーツ環境づくりの推進	Ⅲ 協働的な学びの中で豊かな人間性を育てる						
	(4) 家庭と地域による学校と連携した教育の推進	①総務部	高校生の活動を広く地域に知っていただくための具体的な方法を考える	3.1	2.8	地区別懇談会の実施が難しかったり、実際に行っている生徒の活動も一部にしか知られていない所がまだ多くあるので、広報の仕方など新しい方法を考え、学校、地域などの意見を聞き、実行していきたい。		
	(5) 特別支援教育の推進	②教務部	各教科でのアクティブ・ラーニングの実践を促す	3.0	2.6	いろいろ工夫をして授業に取り組まれている先生は多いと思う。部として各教科に実践を促すという機会はなかった。それぞれの先生にお任せしているのが現状である。		
	(1) 主体的に生きるための学びと場の充実	③生徒指導部	生徒が積極的に参加する行事（村高祭等）を効果的に実施し、成就感を体得するとともに協調性を養う	3.7	3.7	生徒会を中心に主体的に取り組み大きな感動と成長を生んでいる。さらに生徒1人1人が主体性と協調性を体得し、さらに自己肯定感を持てるような実践をウィズコロナの観点から創意・工夫していくことが求められている。		
	(2) 文化財等地域資産の活用	④進路指導部	模擬面接・グループディスカッション・複数の教員との面談を通じて、多面的に物事を理解し協働する精神を養う	3.2	3.2	模擬面接を進路指導部・3学年の先生だけでなく、教科や部活動の先生にもお願いすることで、多面的に物事を理解する力は養えた。		
	(3) 「する・みる・ささえる」スポーツ環境づくりの推進	⑤保健部	健全な学校生活を送るための環境づくりの重要性を自覚し、生徒・職員が協力して清掃美化活動を行う	3.3	3.4	生徒数が少ない中で、職員生徒協力してよく美化活動ができている。状況によっては清掃分担などの再考は必要と思われる。		
	(4) 家庭と地域による学校と連携した教育の推進	⑥1年	HR活動や学校行事などを通して、他人への思いやりを育て、互いを認め理解し助け合える人間関係を育てる	3.5	3.5	HR活動で、互いを理解し認め合える人間関係の構築を図った。また、文化祭などの行事で生徒同士が共に認め合い、成長し合う姿を見て取ることができた。今後は、思いやりのある言動やクラスの一員としての自覚を醸成するためのさらなる枠組みを熟考し、試みていきたい。		
	(5) 特別支援教育の推進	⑦2年	中堅学年としての自覚を持ち、集団に寄与できる生徒の育成と、互いを認め高め合う人間関係の構築を図る	3.3	3.5	HR活動や学校行事、修学旅行の集団生活を通して、自他の理解を深め、それぞれの良さを発揮させながら豊かな人間性を育むことができた。また、生徒会活動を通して、学校の中心としての自覚が出てきた。3年生では様々な活動でリーダーシップを発揮できる生徒を増やしていきたい。		
	(1) 主体的に生きるための学びと場の充実	⑧3年	最高学年としての自覚を持ち、様々な活動においてリーダー役として行動できる集団の形成を目指す	3.5	3.5	最高学年としての自覚を持ち、村高祭や村高フォーラムなどの様々な活動においてリーダーシップを発揮し、学校行事の成功に大きく貢献し、その役割を十分に果たした。		
	(2) 文化財等地域資産の活用			3.3	3.3			